

# 新党日本・田中康夫氏

国民は政権交代に、終戦で平和が訪れるような大きな変化を期待したのだと思う。だが、平和で成熟した今の日本で、そうした変化を実感してもらうのは難しい。

当初、民主党と統一会派を組んだ私は、無駄の削減だけでなく、小さくとも目に見える「果実」を国民が得られるような予算の組み替えを提言した。例えば、介護スタッフの給与を時給30円アップし、人手不足を解消する。老朽化した橋やトンネルを2カ月で緊急総点検し、前倒しで補修すれば地域経済も活性化する。

しかし、民主党は〇×式「事業仕分け」などのパフォーマンスで、やる

気のある役人を逆に遠ざけてしまった。これが最初のつまづき。

さまざまな国内外の予定から逆算して中長期の工程表を考えるのが政治だが、民主党は出たとこ勝負。工程表づくりに役人が協力していない表れ

だ。「政権交代」自体が目的となってしまう、実体験からわき出るような施策が乏しかった。

官邸前で毎金曜夕方に続いている(原発)再稼働反対の抗議は、イデオロギーや党派を超えた国民の怒り。なのに「無党派」の受け皿だった民主党政権が今、一番、それを分かっていない。

## 役人との協力築けず



たなかやすお 新党日本代表。衆院兵庫8区。元長野県知事。当選2回(参院1回、衆院1回)。56歳。